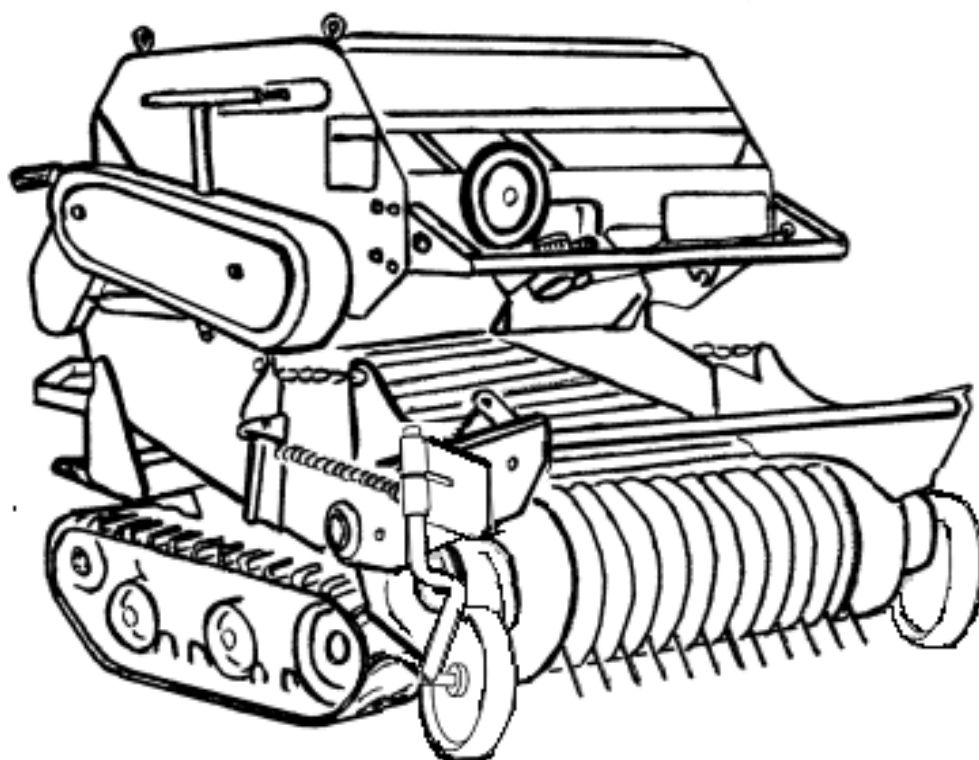


取扱説明書及び部品表

Takakita

自走小型ローバレーラ

SE-512



本製品を安全に、また正しくお使いいただくために
必ず本取扱説明書をお読みください。
お読みになった後も大切に保管してください。
本取扱説明書はお手持ちのスマートフォンや
タブレットからアクセスすることができます。



株式会社 **タカキタ**

は じ め に

このたびは本製品をお買い上げいただき、ありがとうございました。

この取扱説明書は、**自走小型ロールペーラ**の取扱方法と使用上の注意事項について記載しております。ご使用前には必ず、この取扱説明書を熟知するまでお読みのうえ、正しくお取扱いただき最良の状態でご使用ください。

- お読みになったあとも必ず製品に近接して保管してください。
- 製品を貸与または譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡しください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかにお買い上げの販売店または当社にご注文ください。
- 本書は、**注意**として製品自体の損傷防止に関する留意事項を記載しております。
- なお、品質・性能あるいは安全性の向上のため、使用部品の変更を行うことがあります。その際には、お手元の製品と本書の内容が一致しない場合がございますので、あらかじめご了承ください。
- ご不明な点やお気付の点がございましたら、お買い上げの販売店または当社にご相談ください。

⚠ 警 告 サ イ ン

⚠ 印付きの下記マークは安全上、特に重要な項目ですので、よく読んで必ずお守りください。

⚠ 危険

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。

⚠ 警告

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

⚠ 注意

その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。

目 次

 安全に作業するために	1
本製品の使用目的とサービスについて	8
各部の名称とはたらき	9
運転に必要な装着の取扱い	10
1. シフトレバー	10
2. スロットルレバー	10
3. 駐車ブレーキ	10
4. サイドクラッチレバー	10
5. 走行クラッチレバー	10
6. 作業クラッチレバー	11
7. ピック昇降レバー	11
8. チャンバー開放レバー	11
9. トワインの取付けかた	11
10. トワイン巻付けピッチ調整のしかた	12
11. トワイン案内金具の位置確認	12
12. 梱包圧感知装置の取扱い	12
13. トワイン繰出し装置	12
14. 安全装置の取扱い	13
15. ブザー	13
16. ゲージホイール	14
17. 給油装置	14
作 業 方 法	15
1. 作業手順と要点	15
2. ピックアップドラムの高さ調整	16
3. 牧草の拾い上げ方法	16
4. 切断ワラと長ワラの拾い上げ方法	16
5. 梱包作業方法のまとめ	17
6. 傾斜地での作業	17
作業前の点検について	18
1. 点検一覧表	18
簡単な手入れと処置	19
1. エンジンの点検・調整	19
2. エンジンのエアクリーナー	19
3. ミッションオイルの点検	19
4. クローラの張り調整	19
5. 走行クラッチ・作業クラッチの調整	20
6. 左右のサイドクラッチレバー	20
7. ベルト押え	21
8. ローラチェーンの張り調整	21
9. トワイン結束装置の調整	21
10. 各部への注油・グリスアップ	21
11. トワイン切断ナイフの交換	22
12. 長期格納時の手入れ	22
不 調 診 断	23
付 表	25
1. 主要諸元	25
2. 主な消耗部品	25

！ 安全に作業するために

取扱説明書と本機に貼ってある**！**表示ラベルをよく読み、機械の使い方をよく理解したうえで使用してください。また、機械を点検して異常がないかを確認してから使用してください。

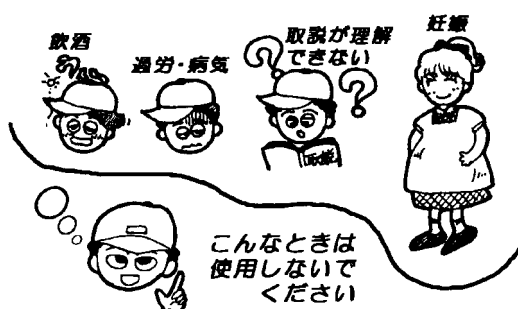
機械を貸すとき、または所有者以外が運転するときは、運転方法を指導し、本書も貸与し必ず読んでもらってください。

1. 本機を使用するにあたって

(1) 使用する人の条件

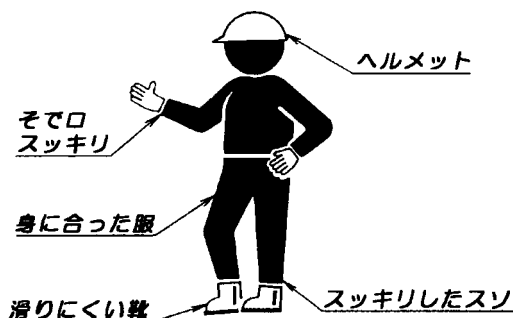
次の項目に該当する場合は本機を使用しないでください。

- 飲酒したとき。
- 過労・病気・薬物の影響・その他の理由により正常な運転ができないとき。
- 妊娠しているとき。
- 取扱方法を熟知していない人。



(2) 使用する人の服装

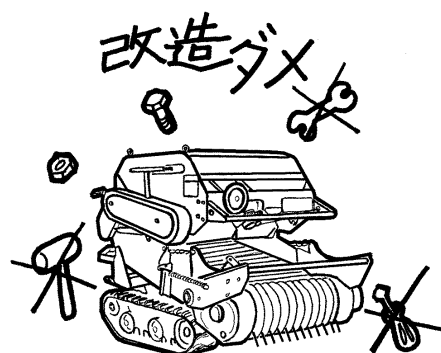
機械に巻き込まれたり、滑って転倒したりする事故を予防するため、首巻き・腰タオルをしないで、ヘルメット・滑り止めの付いた靴を着用し、だぶつきのない作業に適した服装で安全な作業をしてください。



(3) 機械の改造厳禁

指定以外の部品を取付けないでください。

また、改造をしないでください。



(4) 使用目的以外への使用禁止

稲ワラ・麦稈・牧草をロール状に梱包することを目的とした機械です。他の目的には使用しないでください。

(5) 機械を他人に貸すとき

取扱方法をよく説明して、使用前には『取扱説明書』を必ず読むように指導してください。



！ 安全に作業するために

2. 点検・整備をしてください

(1) 1年毎の定期点検・整備を

整備不良による不具合や事故を防止するために、1年毎に定期点検・整備を受け、機械が最良の状態で作業ができるようにしてください。



(2) 作業前の点検・整備を忘れずに

ご使用になる前と後には必ず点検・整備を行ってください。

(3) 点検・整備・掃除をするとき

点検・整備・修理・掃除をするときは、交通の危険がなく、機械が転倒したり、動いたりしない平坦で安定した場所で、エンジンを停止し、駐車ブレーキまたは車止めをしてから行ってください。



(4) 点検・整備は加熱部分が冷めてから

マフラやエンジンなどの加熱部分が十分に冷めてから点検・整備をしてください。守らないと火傷する恐れがあります。

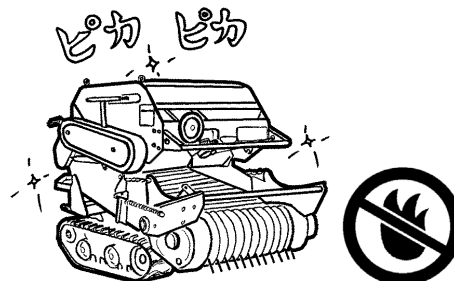
(5) ナイフに注意すること

ナイフ類は、絶対に素手で触れないでください。必ず手袋などの保護具を着用してください。



(6) 機械を常にきれいに

エンジン・マフラ・ベルトカバー・バッテリーなどに枯草、芝草がたまっていると、火災の原因となることがあります。機械を常にきれいにしてください。



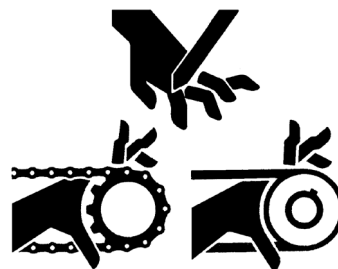
(7) 排気ガスには十分注意

屋内などでエンジンを始動するときはエンジンの排気ガスによる一酸化炭素中毒の恐れがあります。エンジンの始動は、風通しのよい場所で行い、やむをえず屋内で始動する場合には、十分換気を行ってください。



(8) カバー類を必ず取り付ける

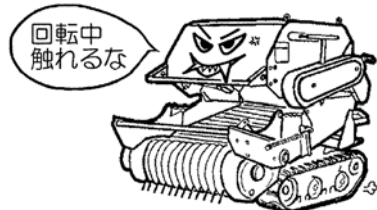
カバー類などの防護装置を取外す場合は、必ずPTOを切り、エンジンを停止してから行ってください。また、取外したカバー類は必ず元どおりに取付けてください。守らないと、傷害事故を引き起こす恐れがあります。



⚠ 安全に作業するために

(9) 注油・給油するときは

PTOを切り、エンジンを停止し、回転部分が完全に止まってから行ってください。



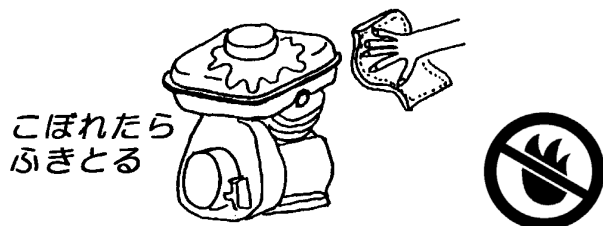
(10) 燃料補給時は火気厳禁

燃料補給時は、くわえ煙草やマッチ・ライターなど裸火照明は絶対に使用しないでください。守らないと燃料に引火し、火災を起こす恐れがあります。



(11) こぼれた燃料はふき取る

燃料を補給したときは、燃料キャップを確実に閉め、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。守らないと火災事故を起こす恐れがあります。



(12) マフラ・エンジンのゴミは取り除く

マフラやエンジン周辺に、ワラクズ・ゴミなどが付着していないか作業前に点検し、付着していれば取除いてください。守らないと火災事故を起こす恐れがあります。



(13) 長期格納するときは

機械を清掃し、回転部およびチェンには十分注油して、屋内の平坦な場所に保管してください。



3. 作業・移動をするときは

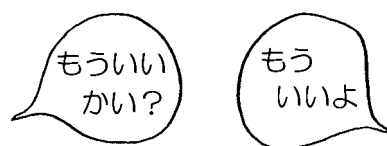
(1) 人や動物を近づけない

特に子供には十分注意し、近づけないようにしてください。



(2) 二人以上で作業するときは

二人以上の共同作業では、お互いに声を掛け合うなどして、安全を確かめ合いながら作業してください。



(3) エンジンを始動するときは

作業クラッチおよび走行クラッチを切り、変速レバーを中立にし、周囲の人に合図をして安全を確かめてからエンジンを始動してください。守らないと傷害事故を引き起こす恐れがあります。



⚠ 安全に作業するために

(4) 急な発進・停止・旋回・

スピードの出しすぎ禁止

スピードの出しすぎ、急な発進・停止・旋回は、事故の原因となるだけでなく、機械の寿命も縮めますので行わないでください。

また、起伏の多いほ場や傾斜地は、危険です。作業スピードは極力落として作業を行ってください。

(5) 傾斜地で作業するときは

次のことを必ず守ってください。

- ①等高線に平行、または斜めに走行すると横転の危険があります。

斜面の作業は、必ず等高線に対して直角方向に走行してください。

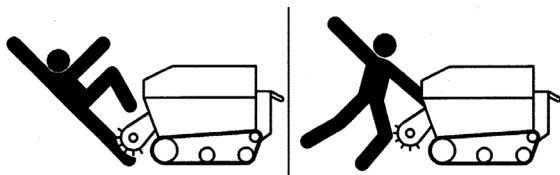
- ②傾斜地で旋回するときは、速度を落とし、急ハンドルを切らないでください。守らないと、転倒する危険があります。

- ③傾斜地でのボール放出は、谷側にボールが転動して危険です。必ず平坦地まで移動して、安全な場所に放出してください。

(6) 回転中のピックアップドラムや

タイトバーには触れない

回転しているピックアップドラムやタイトバーに、手や足で絶対に触れないでください。巻き込まれ重傷を負うことがあります。



(7) 移動および旋回するときは

旋回時に片方のクローラをあぜぎわに乗り上げたり、急旋回は絶対に行わないでください。転倒や脱輪の恐れがあり危険です。

(8) シェアボルトの交換や

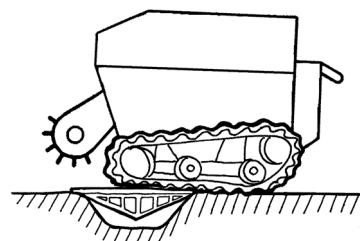
巻き付き草などを取除くときはエンジンを必ず停止し、回転部が完全に止まってから行ってください。



(9) 溝や畦を横断したり

軟弱な所を通るときは

スリップや転倒による事故を防ぐために、幅・長さ・強度が十分あるスリップしないアユミ板をかけ、最低速度で通ってください。



(10) 作業途中で運転席より離れるときは

平坦な場所に停車し、エンジンを停止し、走行クラッチを切り、駐車ブレーキを掛けてください。

(11) 後進して作業するときは

後方に障害物のないことを十分確認し、本機と障害物の間に人や動物を挟まないようにしてください。



⚠ 安全に作業するために

(12) あぜの乗り越えは

あぜを越えるときは、機体が上向きから下向きに急に変わるので十分に注意し、最低速度であぜに直角に越えるようにしてください。コンクリートのあぜや、高さが10cm以上のときはアユミ板を使用してください。



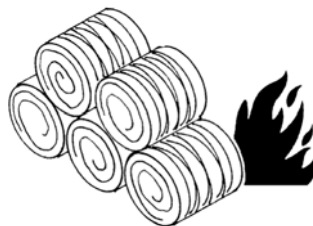
(13) 高温油に注意してください

- ①高温油による傷害を防止するために作業直後の注油やミッションのオイル交換はしないでください。作業前か十分温度が冷えてから行ってください。
- ②火傷やケガを負った場合は、速やかに医療機関を受診してください。



(14) 乾草火災に注意

乾燥不十分な牧草をロールベールに成形すると、ロールベール内部からの発火により火災が発生する危険があります。ロールベール成形後2～3日間は、風通しの良い屋外に仮置きした後、屋内に収納してください。



4. 道路走行・輸送するときは

(1) 公道走行はできません

本機は公道を走行すると道路運送車両法に違反します。公道を移動するときは、トラックなどで運送してください。

(2) トラックなどへ積み込み・降ろしは

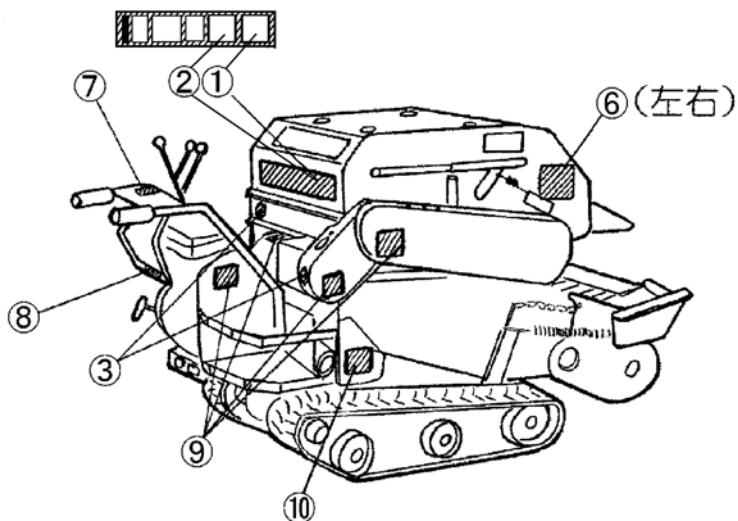
平坦な場所でトラックが移動しないようエンジンを停止し、サイドブレーキをかけ、車止めをして、幅・長さ・強度が十分あるスリップしないアユミ板をかけ、クラッチを使わずに最低速度で行ってください。積み込んだ機械は車止めをして、強度が十分にあるロープで確実に固定してください。



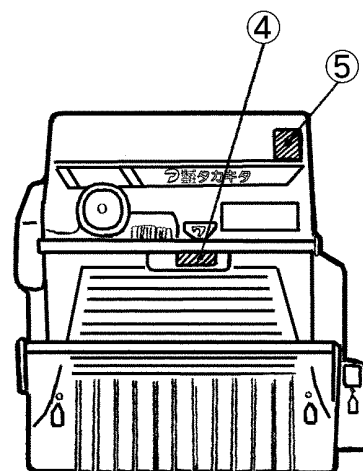
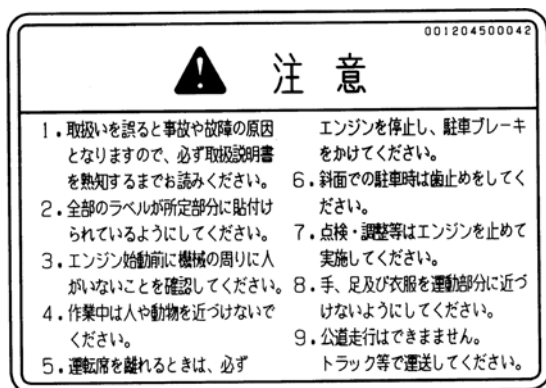
以上、機械の取扱いで注意していただく主だった事項を記載しましたが、これ以外にも本文の中で ⚠ 印を付けて安全上の注意事項を表記しております。

⚠ 安全に作業するために

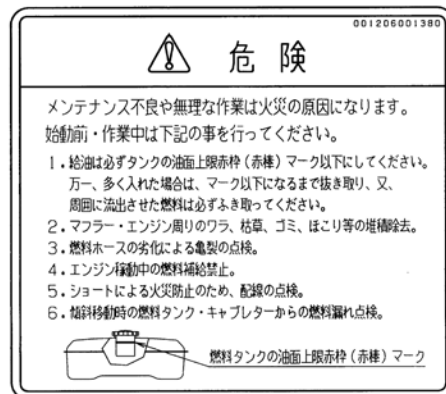
5. 警告ラベルの貼付け位置



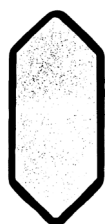
①部品コード 001204500042



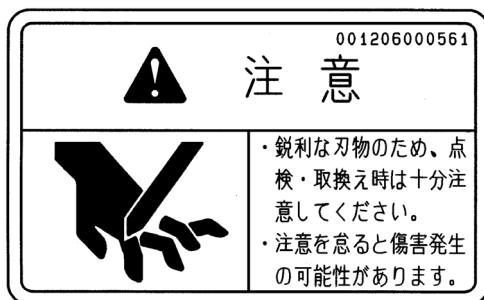
②部品コード 001206001380



③部品コード 001206000530



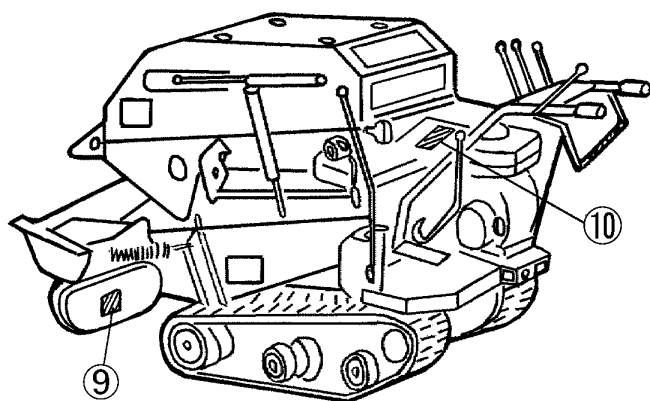
④部品コード 001206000561



⑤部品コード 001206000540



⚠ 安全に作業するために



⑥部品コード 001206000550



⑦部品コード 001206000440

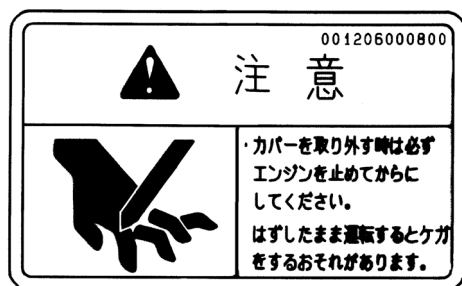


⑧部品コード 001206000130



⑩部品コード 001206000420

⑨部品コード 001206000800



警告ラベルの取扱い注意事項

- (1) 警告ラベルはいつもきれいにして傷をつけないように、また汚れている場合は、中性洗剤で洗い、軟らかい布で水気を拭いてください。
- (2) 傷ついたり、汚れたり、剥がれた場合は、お買い上げの販売店または当社に注文し新しいラベルを元の位置に貼ってください。(ラベルをご注文の際は部品コードをご連絡ください。)
- (3) 警告ラベルが貼ってある部品を交換する場合は、新しいラベルを注文して元の位置に貼ってください。
- (4) 新しいラベルを貼る場合は、汚れを拭き取り、乾いた面に貼ってください。気泡は隅の方へ押しながらかいてください。

本製品の使用目的とサービスについて

本製品の使用目的について

本製品は、稲ワラ・牧草・麦稈等をロール梱包する作業にご使用ください。

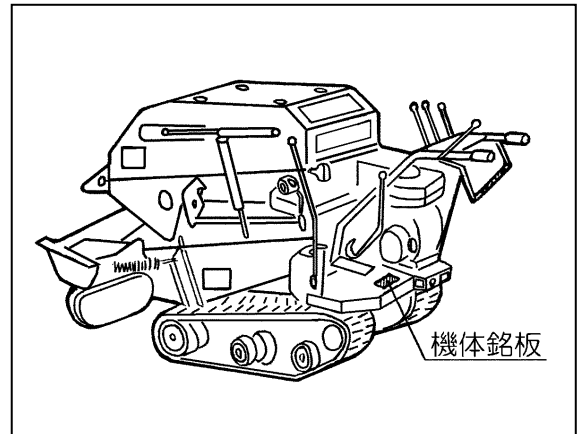
使用目的以外の作業や改造などは、決して行わないでください。

使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりません。

(機体銘板貼付け位置図)

アフターサービスについて

機械の調子が悪いとき、不調診断に従って点検・処置しても、なお不具合があるときは、お買い上げいただいた販売店、JA（農協）、または、お近くの当社営業所へご連絡ください。



【連絡していただきたい内容】

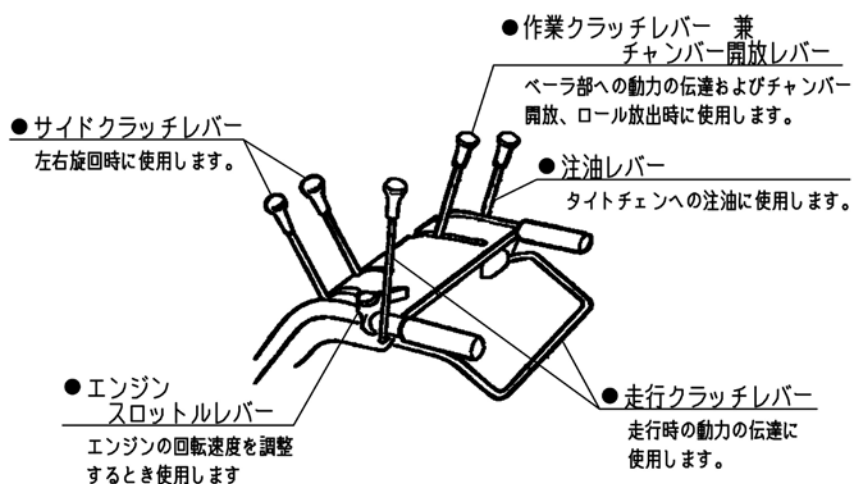
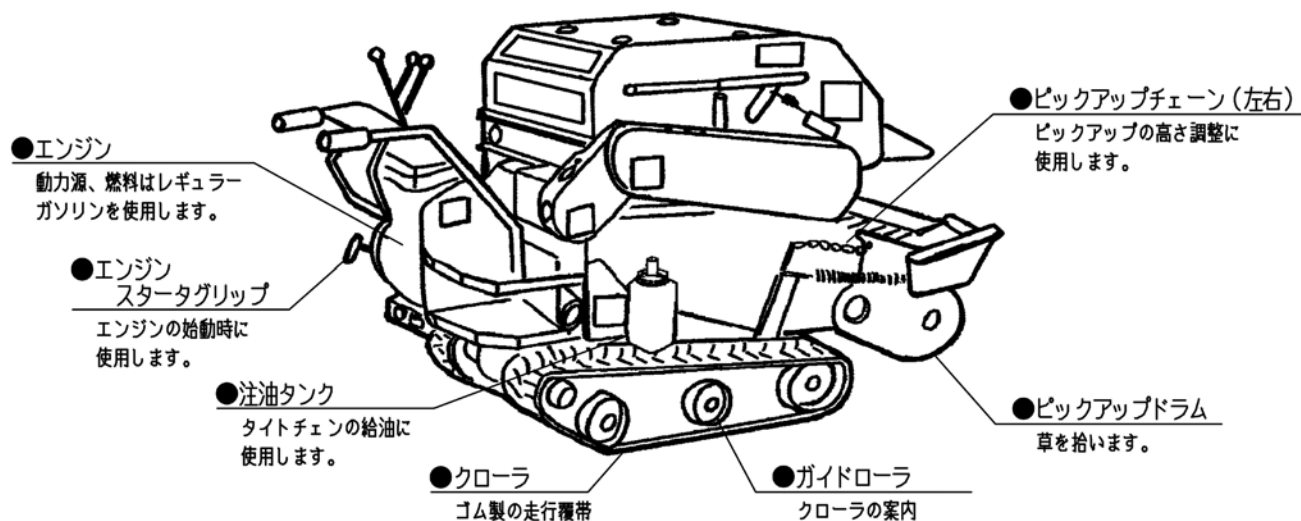
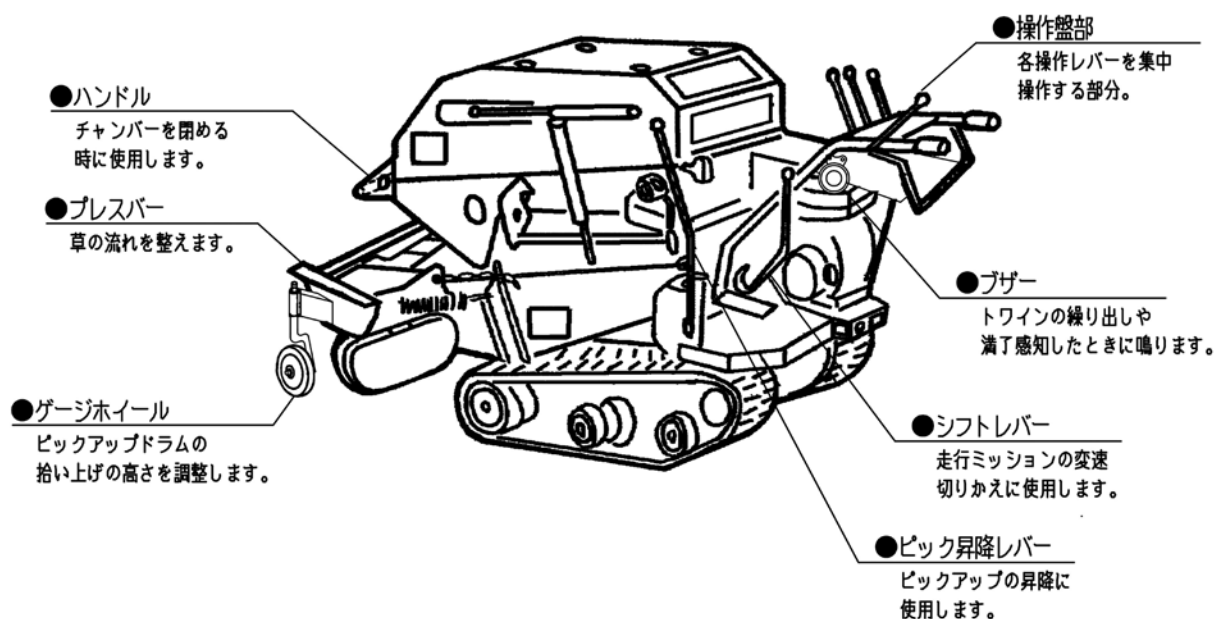
- 品名と型式
- 機体 No. (SER-No.)
- ご使用状況は？ (どんな条件でどんな作業をしていたときに)
- どれくらい使用されましたか？
(約〇〇アール、または約〇〇時間使用後)
- 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しく教えてください。

※機体No.は、上図に示す機体銘板に打刻しております。

【今後参考のため、次の空欄に機体 No. などを記入しておいてください。】

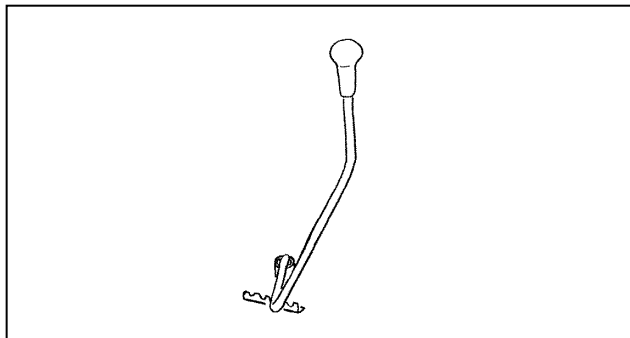
品名	自走小型ロールベアラ
型式	SE-512
機体 No. (SER-No.)	
購入年月日	
販売店名	TEL : ()

各部の名称とはたらき



運転に必要な装置の取扱い

1. シフトレバー



作業時には1速、移動時は2速にご使用ください。

＜速度表＞ (km/h)

変速	F1	F2	R
速度	1.4	2.8	1.4

注意

変速の際は、必ず走行クラッチレバーを「ブレーキ入」にしてから行ってください。

！警告

エンジン始動時は、突然動き出さないよう、変速レバーをニュートラル(中立)にするとともに作業クラッチレバーを必ず「切」にしておいてください。

2. スロットルレバー

操作盤部左側にあります。

レバーを下げるとエンジン回転速度が高くなり、上げると回転速度は低くなります。

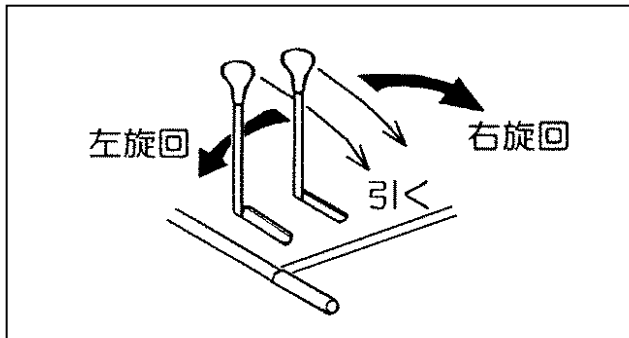
3. 駐車ブレーキ

走行クラッチレバーを「切」にすると、駐車ブレーキがかかります。

注意

本機から離れる時には、必ず走行クラッチレバーを「切」にしておいてください。

4. サイドクラッチレバー



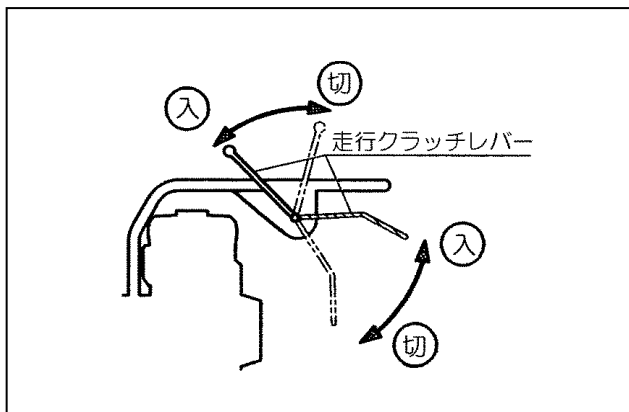
左に旋回したい時は、左のサイドクラッチレバーを手前に引いてください。

右に旋回したい時は、右のサイドクラッチレバーを手前に引いてください。

！警告

- 高速走行時、サイドクラッチレバーを強く引くと急旋回して危険ですので注意してください。
- 砂利道での急旋回は、クローラに石がかみ込むおそれがありますので避けてください。

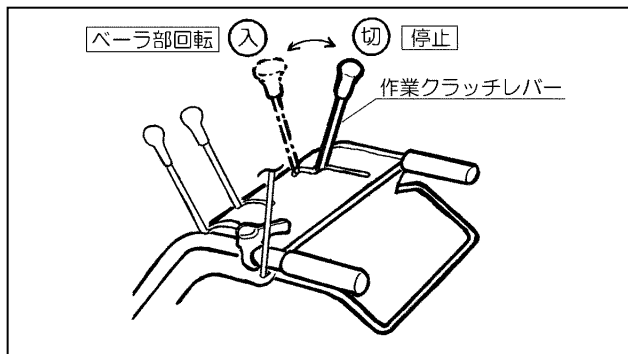
5. 走行クラッチレバー



上図のように走行クラッチレバーを前方に倒し、「入」の状態にすると走行することができます。

運転に必要な装置の取扱い

6. 作業クラッチレバー



上図のように作業クラッチレバーを前方へ倒し、「入」の状態にすると作業クラッチがつながり、ベアラ部が回転します。

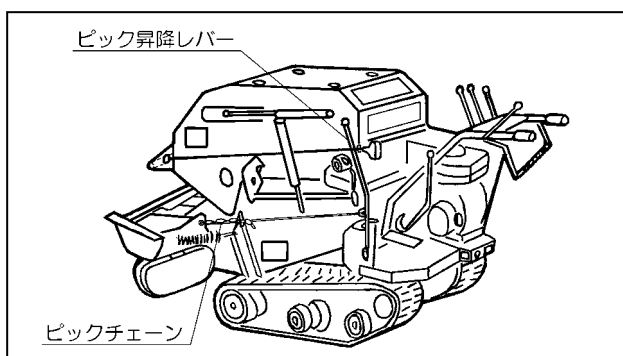
注意

- アイドリング状態で作業クラッチを「入」にするとエンジンがストップする場合があります。
- エンジンの回転速度を十分上げてから作業クラッチをゆっくりつないでください。

警告

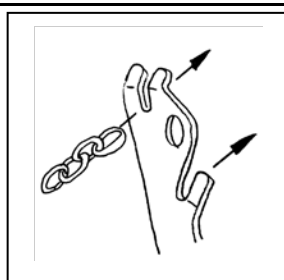
エンジン始動時は突然動き出さないよう、作業クラッチを必ず切っておいてください。

7. ピック昇降レバー



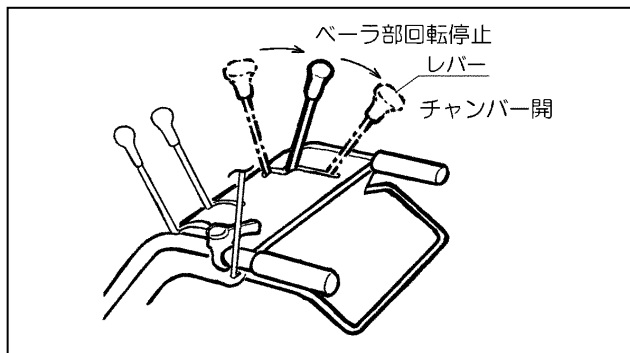
旋回時はピックアップの損傷を防ぐために、ピック昇降レバーでピックアップを上げてください。

作業時はピックチェーンのリンク数を変えることで、高さを調節してください。



差し込む溝位置を変えることでチェーン半コマ分の高さを調節することができます。

8. チャンバー開放レバー



- ①レバーを引くとチャンバーが開き、タイバーの動きが止まります。
- ②ベールを手で取り出します。
- ③チャンバーを手で閉じます。
(ケース両側に草がたまっている場合は取り除き、チャンバーを確実に閉めてください)

注意

ロールが出にくい時は、レバーを矢印と逆方向へ動かしてベアラ部を回転させるとロールは前へ出やすくなります。

9. トワインの取付けかた

◆トワインボックスにセット

次頁図のようにトワインボックスにセットしてください。

◆アイボルト・ガイド・テンショナー

次頁図のようにアイボルト、ガイドを經由し、トワインテンショナーに通してください。

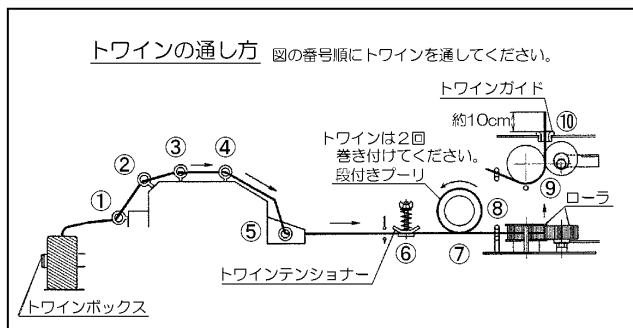
◆段付きプーリに巻き付け

続いて、トワインテンショナーより出たトワインを段付きプーリに反時計方向に1～2回、巻き付けてください。

運転に必要な装置の取扱い

◆トワイン繰出しローラに通します

段付きプーリに巻き付け後、アイボルトに通し、ローラの間から出たトワインがガイドより約10cm程度出るようにセットしてください。



10. トワイン巻き付けピッチ調整のしかた

成形したロール外周に巻き付けるピッチの調整は、段付きプーリの径で行います。

段付きプーリ	大	小
巻き付けピッチ (mm)	(狭い) 111	(広い) 152
成形する草の長さ	短い草	長い草

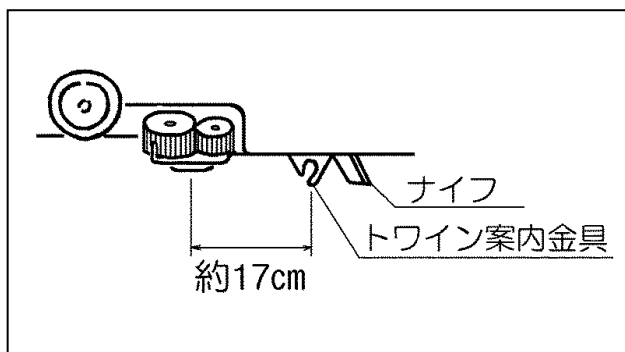
11. トワイン案内金具の位置確認

◆トワイン案内金具スタート位置合わせ

作業前に次図のようにトワイン案内金具が、トワイン繰り出し位置より右側へ約17cmのところへくるように、調整してください。

注意

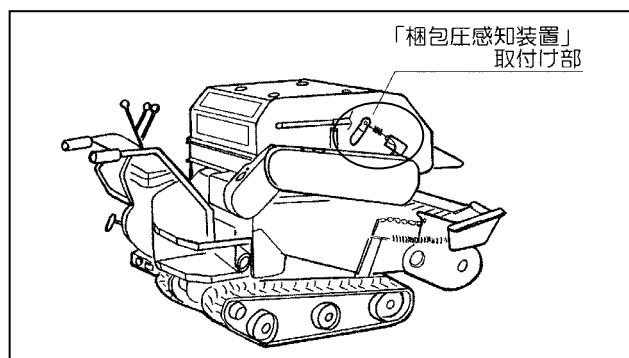
位置合わせをしないと、トワインの無駄巻きと巻き付けに時間がかかります。



12. 梱包圧感知装置の取扱い

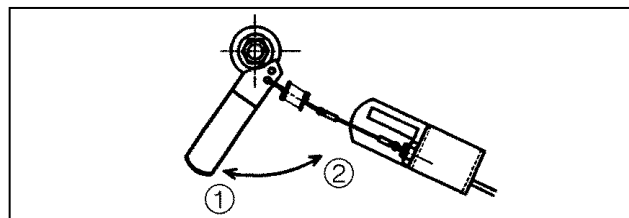
◆梱包圧感知装置の装備位置

次図に示すように進行方向右側に装備しています。



◆梱包圧感知装置の作用

梱包圧力を感知する装置で、圧力感知と同時にブザーが鳴ります。

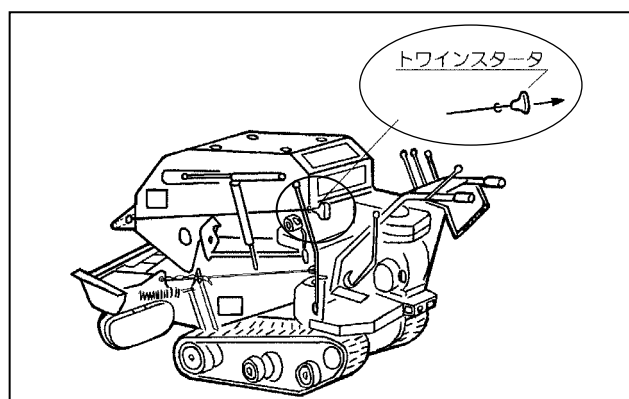


標準固さはエンジンをかけ、レバーを①方向へ動かしてブザーが鳴った位置より1コマ右(②方向)へ戻します。固くするには、レバーをさらに右側へ1コマずつ回転させます。

13. トワイン繰出し装置

◆トワイン繰出し装置の作用

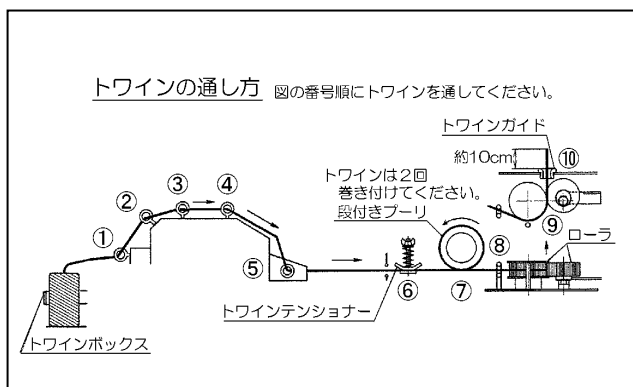
設定した圧力を梱包圧感知装置で感知するとブザーが鳴りますので、トワインスタータを1～2回引いてトワインを繰り出してください。



運転に必要な装置の取扱い

◆トワイン押えの圧力調整

使用するひも (PP、サイザル、ジュート) により、トワインテンショナー⑤およびローラ⑧の加圧力を変えてください。



●ローラ部の調整

調整ボルトによりトワインの加圧力調整を行いますが、「何とかトワインを引き出せる程度の加圧」とし、決して強めの加圧にはしないでください。

(トワインが引き出せれば、加圧が緩いほど良い)

ローラの加圧を強くすると、ひも (特にジュート) の切断等の原因となります。

●トワインテンショナー部

いずれのひもの場合も、段付きプーリでスリップしない程度の加圧とし、強めの加圧にはしないでください。

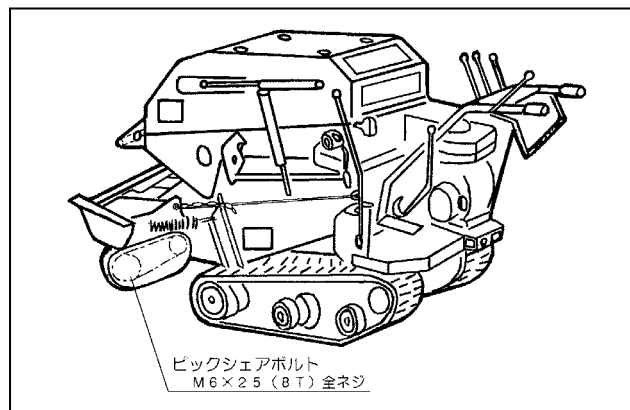
加圧を強くすると、ローラの加圧も上げる必要が生じるため、ひもの切断あるいはトワインスタータから繰り出さない等の原因となります。

14. 安全装置の取扱い

◆シェアボルト (1ヶ所)

本機には、安全装置としてピックアップ部にシェアボルトがあります。

切損した場合、必ずエンジンを停止してから交換してください。使用するボルトは M6×25 (8T) 全ネジ です。それ以外のボルトを使用すると、故障の原因となりますので絶対にやめてください。

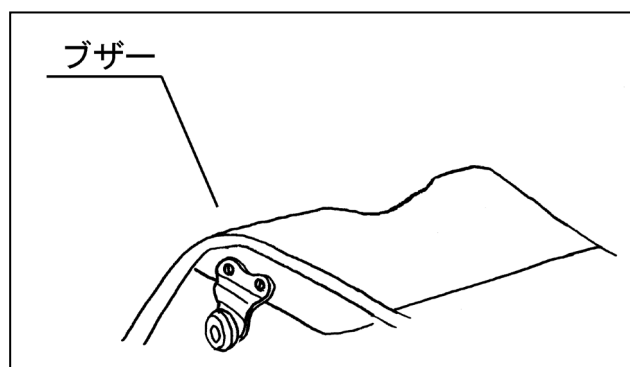


◆シェアボルトがよく切損する場合

凹凸の多いほ場では、ピックアップを上げてタイヤが地面と接触しないようにしてください。

15. ブザー

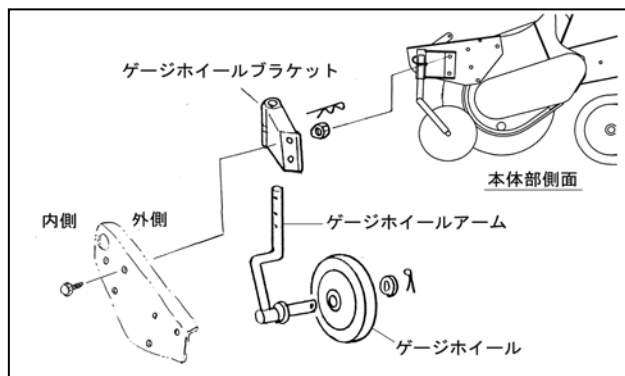
感知した時に、オペレータに知らせます。



運転に必要な装置の取扱い

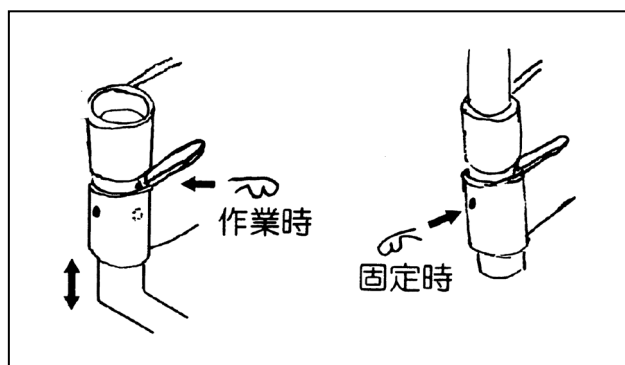
16. ゲージホイール

本体への組付けは、次図のようにしてください。



①ゲージホイールは乾田切ワラ作業時に使用してください。
高さは5段階に調整できます。
圃場が固くて拾い残す時は、ピックアップを下げて作業してください。

②他の作業時は、ゲージホイールを上向きにRピンで固定してください。
牧草、長ワラ作業ではワラ等を踏むことで拾い上げの妨げとなり、湿田では、ゲージホイールが埋まり妨げとなります。

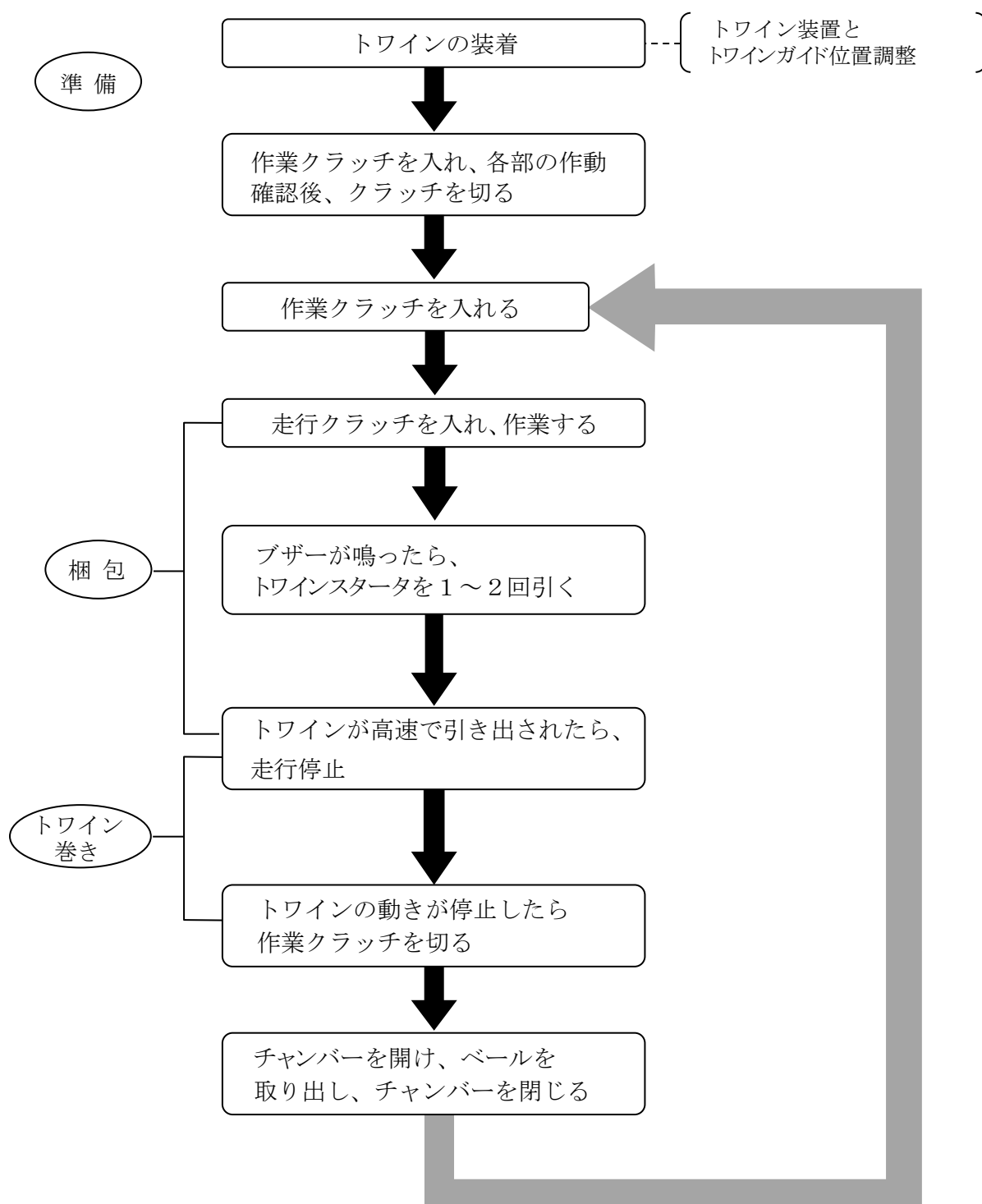


17. 給油装置

- ①作業前には作業クラッチを入れて、タイチェーンを回転させながら注油レバーを4～5回引いて注油してください。
- ②注油タンク内のオイル残量には特に注意して、少なくなればVG32オイル（最大量1.3L）を補給してください。

作業方法

1. 作業手順と要点

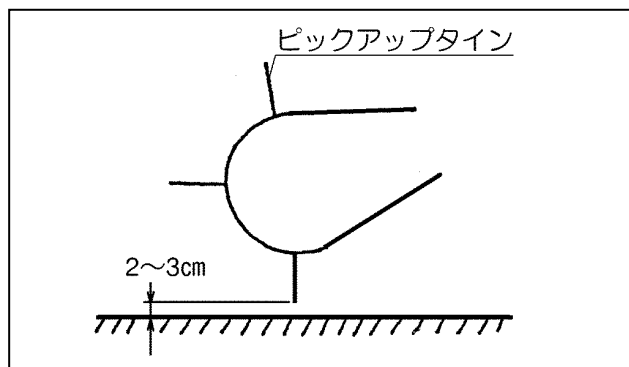


作業方法

2. ピックアップドラムの高さ調整

◆拾い上げ高さ調整

ピックアップドラムの拾い上げ高さは、ピックアップタインが地上から約2～3cmが基準ですが、ほ場の状態に合わせてピクチェーンで調整してください。



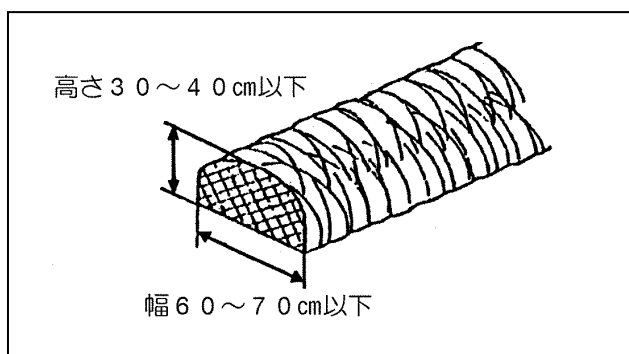
3. 牧草の拾い上げ方法

◆ウインドローを作ってください

牧草の拾い上げ梱包には、必ずウインドローを作ってください。

◆ウインドローの大きさ

ウインドローの大きさは、次図に示す大きさでできるだけ均一なウインドローを作ってください。



注意

ウインドローが大きすぎると詰まりの原因となり能率的な梱包作業ができません。上図の寸法を守ったウインドローを作ってから作業してください。

4. 切断ワラと長ワラの拾い上げ方法

◆切断ワラを拾うときは

ウインドローを作ってください

牧草の拾い上げ梱包と同様に、ウインドローを作って作業すると、能率が上がり、拾い残しロスも少なくなります。

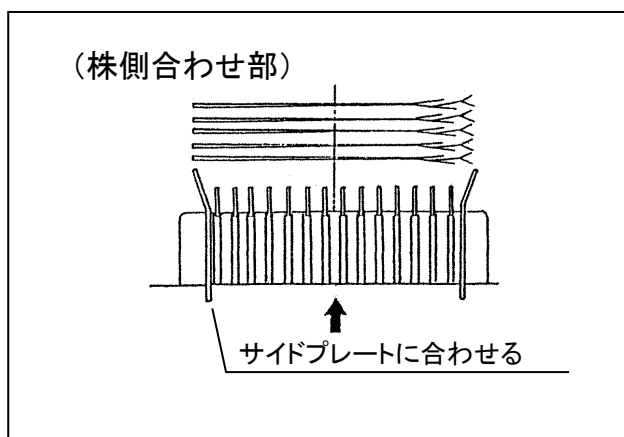
この場合、6～8条分を集めてウインドローを作ってください。

(ウインドローの大きさおよび梱包作業は、前項を参考にしてください。)

◆長ワラを拾うときは

(3・4条刈コンバインの長ワラたれ流しのときは)

長ワラの株側をサイドプレートに合わせて走行してください。



注意

ワラ中央部に合わせたり、穂先をサイドプレートに合わせると、形の悪いベールになり、放出するのに時間がかかるためトワインの緩みの原因となります。

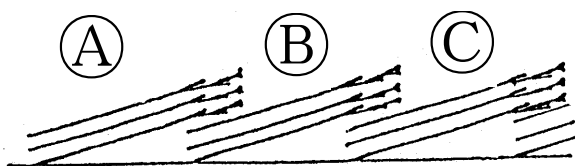
作業方法

◆2条刈のコンバインの

長ワラたれ流しのときは

刈り取り後のワラは重なった状態になっています。次図のA・B・Cの順序で拾い上げてください。

サイドプレートに株側を合わせてAの列のみを拾い上げてください。(上側を拾う)



注意

A・Bを同時に拾い上げると、詰まりの原因となります。

また、ワラの長さが80cm以上のときはAとBの重なりが多くなるため、Bのワラを引きずり込みます。詰まり発生の原因となりますので、この場合にはウインドローを作ってから拾い上げてください。

5. 梱包作業方法のまとめ

◆対象作物の種類、量に合わせて

作業速度を選定

通常は、1速で作業を行ってください。(ワラの量が少ない場合は2速で作業できます。)

長ワラや水分の多い牧草を拾い上げる時は、通常より速度を下げて作業してください。

◆設定圧になるとブザーが鳴り、トワインスタータを1～2回引いて、トワインを繰り出します

ブザーが鳴ったら速度を下げて走行してください。

注意

繰り出しされるトワインは、拾い上げた作物と共にチャンバー内に送り込まれるようにしてください。走行を停止したり、拾い上げ作物がない状態で繰り出すと、チャンバー内に送り込まれず結束ができないばかりか、ピックアップドラムに巻き付くトラブルの原因となります。

◆トワインの動く速度が速くなったら

走行停止

繰り出したトワインがチャンバー内のベールに巻かれると、トワインの動く速度が速くなりますので走行を停止して結束が完了するのをお待ちください。

◆結束完了

設定の巻き付けピッチによるトワイン結束が終わると、トワインが停止し、結束が完了したことを知らせます。

◆チャンバーを開けてベール放出

チャンバー開放レバーを引いてベールを放出します。

6. 傾斜地での作業

本機が傾くと放出が不安定になります。なるべく水平なところを選んでベール放出を行ってください。

作業前の点検について

作業の安全確保と、故障を未然に防ぐには、機械の状態をよく知っておくことが大切です。作業前の点検は、欠かさず行ってください。



警告

- 取り外したカバー類は必ず取り付けてください。衣服が巻き込まれたりして危険です。
- 調節・整備を行うときは、必ずエンジンを停止してから行ってください。
- エンジンが熱い間は、注油・給油は絶対にしないでください。
やけどをするおそれがあります。
- 燃料補給時は、くわえタバコ・裸火照明は絶対にしないでください。また、燃料補給後は、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいに拭き取ってください。
守らないと火災の原因となります。

点検一覧表

No.	項 目	内 容	参照ページ	チェック
1	エンジンの燃料	十分入っているかどうか	別冊説明書	
2	エンジンオイル	規定量が入っているか オイルが汚れていないか	別冊説明書	
3	エンジンのエアクリーナ	オイル量および汚れ	19	
4	走行ミッション	オイル量およびオイルの汚れ	19	
5	走行クラッチレバー	入／切の作動確認	20	
6	作業クラッチレバー	入／切の作動確認	20	
7	左右のサイドクラッチレバー	スムーズな作動	20	
8	トワイン結束装置のチェン張り調整	少し遊びがある程度に張る	21	
9	予備シェアボルト	不足の時は補充	13	
10	タイトチェン給油	VG32オイル給油	14	
11	その他各部注油・グリス	各部への給油参照	21	
12	クローラ	張り調整	19	

点 検 メ モ

簡単な手入れと処置

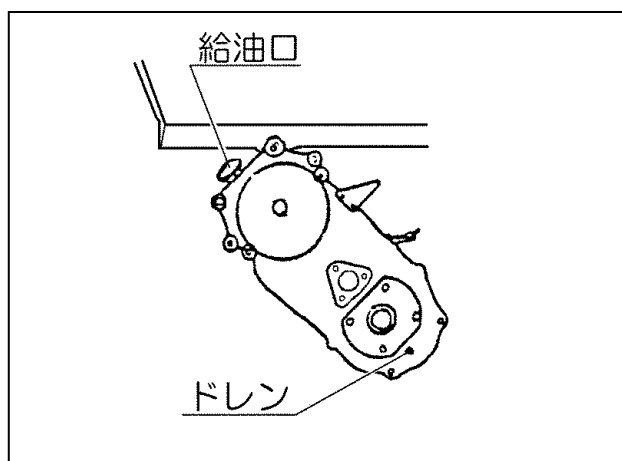
1. エンジンの点検・調整

※エンジンについては別冊の「エンジン取扱説明書」を必ずお読みいただき、日常の点検・整備には万全に注意を払ってください。

2. エンジンのエアクリーナ

本機に使用しているエンジンのエアクリーナはすべてホコリ対策のため、オイルバス式のエアクリーナを採用しております。始業前にオイルが入っているかを確認してください。不足していれば補充し、またオイルがゴミやホコリなどで汚れている場合は、新しいオイルに交換してください。（オイル：エンジンオイルと同等品）

3. ミッションオイルの点検



走行ミッションのオイル交換は、初回は30時間後、2回目以降は年1回シーズン始めに交換してください。

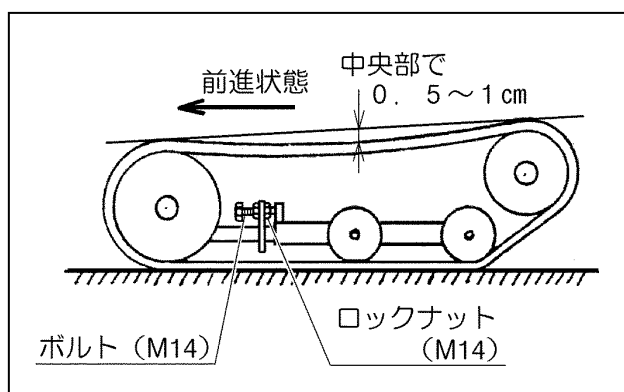
- オイル：ギヤオイル #90
- 油 量：1リットル

4. クローラの張り調整

クローラは使用している間に伸びと摩耗により、たわみが大きくなります。定期的なたわみ量を確認し、調整してください。

※調整方法はロックナットを緩め、ボルトを締め込みます。

クローラの張り具合は、本機を前進状態で停止させ、クローラ上に定規を置き、中央でたわみ量0.5～1cmが適正です。調整は、必ず左右のクローラを均等に行ってください。

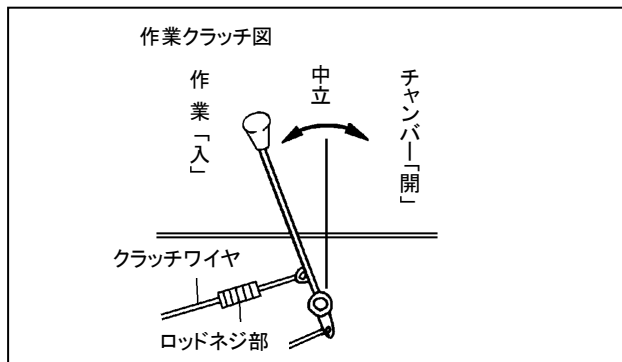


注 意

- 調整は平坦地を選び、エンジンを停止してから行ってください。
- 調整後、ロックナットは確実に締め込んでください。
- ボルトのネジ部に調整後、グリスを塗布しておくことで錆の発生を防ぎ、以後の調整が容易となります。

簡単な手入れと処置

5. 走行クラッチ・作業クラッチの調整

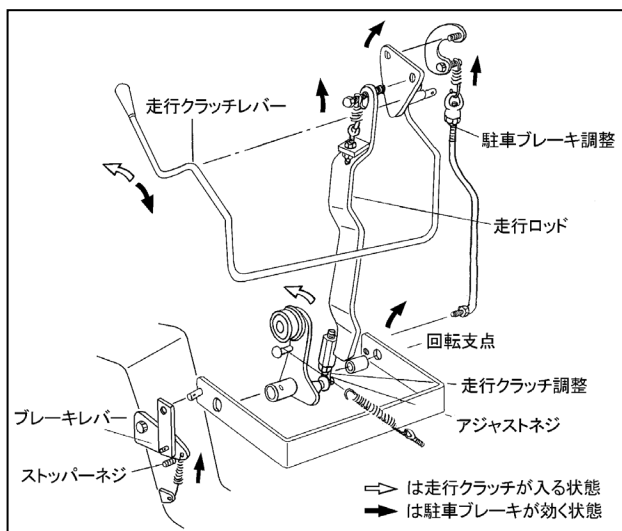


使用している間にクラッチワイヤおよびベルトの伸びにより各部に遊びが発生し、調整が必要となります。

- ①シフトレバーを中立位置に入れ、エンジンを始動してください。
- ②走行クラッチレバー、作業クラッチレバーをそれぞれ数回「入」、「切」させてください。
- ③「入」の時にVベルトが駆動し、「切」の時にVベルトが停止すれば正常です。
- ④「入」の時にVベルトがスリップする場合は、走行ロッドのアジャストネジ部を短くなるようにスパナで調整してください。
- ⑤「切」の時にVベルトが停止しない場合は、逆に長くなるようにスパナで調整してください。

注意

走行クラッチの調整をする場合は、駐車ブレーキの確認が必要です。



- 走行クラッチを入れた時、ミッションのブレーキレバーがストッパーネジに当たっていることを確認してください。

(駐車ブレーキ解除)

- 調整しても各クラッチレバーが「入」状態でVベルトがスリップする時は、Vベルトの交換が必要です。

作業前には必ず走行クラッチ、作業クラッチの作動確認を行ってください。
緊急時にクラッチが切れないと、重大な障害が生じるおそれがあります。

6. 左右のサイドクラッチレバー

(P9、10参照)

使用している間にクラッチワイヤの伸びや各部に遊びが発生し、調整が必要となります。

- ①シフトレバーを低速位置に入れ、ごく低速で走行してください。
- ②左右のサイドクラッチレバーを交互に数回ずつ手前に引き、左右への旋回が問題ないかを確認してください。
- ③左右いずれか旋回時のサイドクラッチの切れが悪い場合は、切れが悪い方のサイドクラッチワイヤを調整してください。
- ④調整後、ロックナットはスパナで確実に締め付けてください。

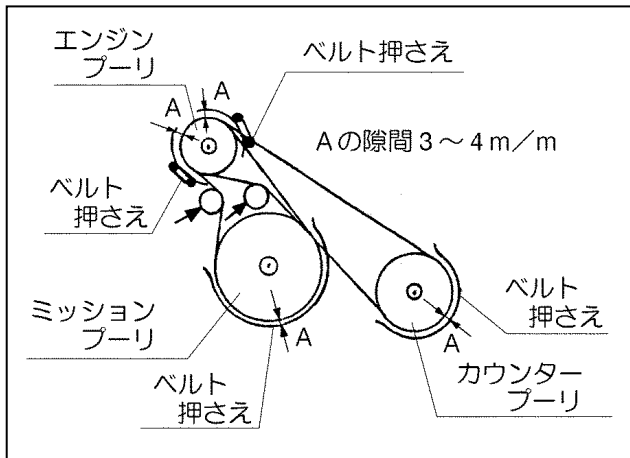
注意

- サイドクラッチワイヤの調整においては、ワイヤの調整後、必ずサイドクラッチレバーが「切」の位置で、クラッチ金具に多少の遊びがあることを確認してください。
- クラッチ金具の作動に遊びがないと、走行ミッション内の爪クラッチの損傷の原因となります。

簡単な手入れと処置

7. ベルト押え

クラッチを入れた状態の時、ベルトおよびプーリとの隙間は適正かを点検してください。



注意

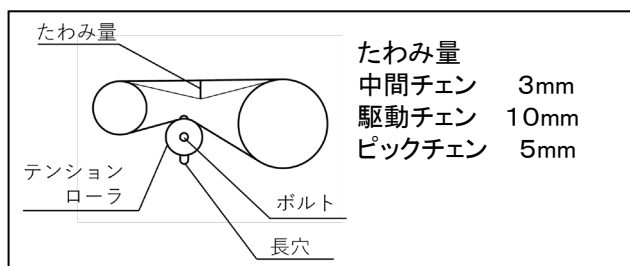
チェンは特に初期伸びをします。
初めての使用から10時間後に張り調整を行ってください。

警告

- ①チェンの張り調整や各部の調整をする時は、必ずエンジンを停止させて回転部が止まってから行ってください。
- ②取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。

8. ローラチェンの張り調整

中間チェン、駆動チェン、ピックチェンの3箇所には張り調整が必要です。
緩んだ時はボルトを緩め、各チェンを指で押した際に、指定のたわみ量になるようにローラを押し付けてください。



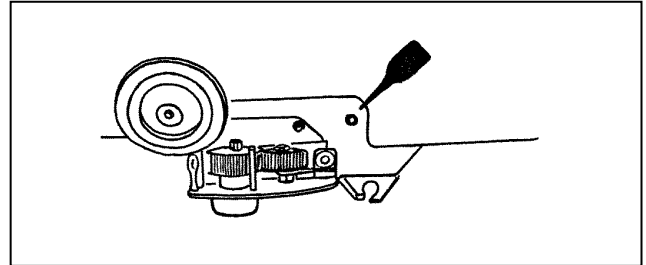
9. トワイン結束装置の調整

◆トワイン案内金具が

スムーズに移動しないとき

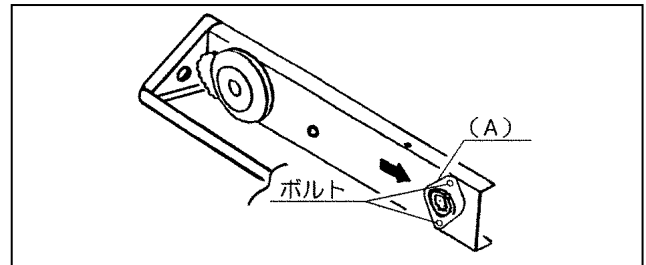
①チェンの油切れ

・・・注油する



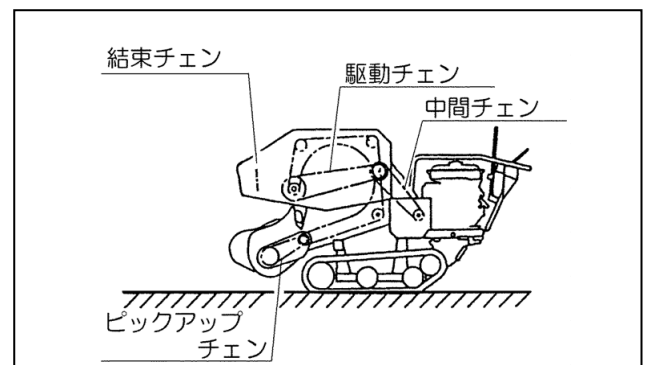
②チェンのゆるみ

・・・まず、ロールベアラ上面のケースカバーを取り外してください。その後、軸受のボルトを少し緩めて(A)を矢印方向へずらしてください。その後、ナットで固定します。

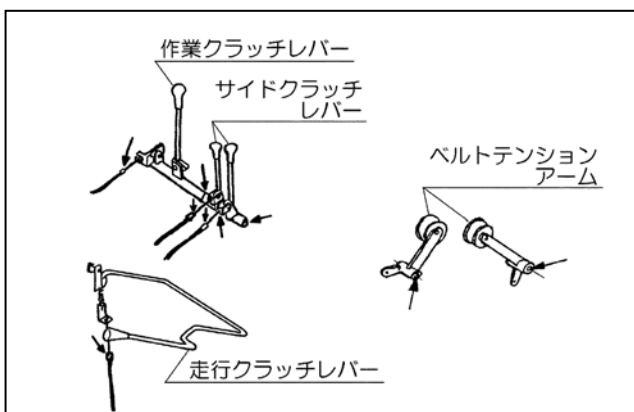
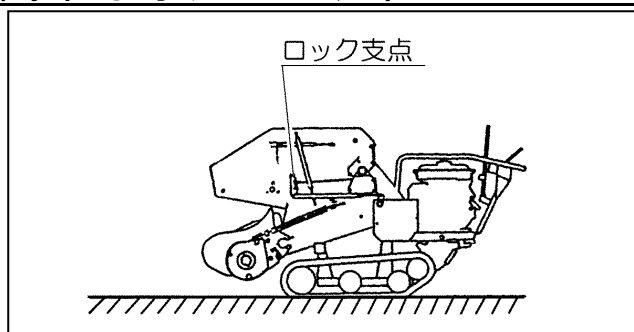


10. 各部への注油・グリスアップ

◆各部の注油箇所



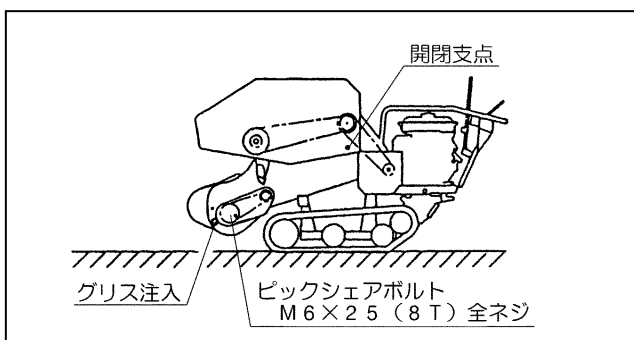
簡単な手入れと処置



警告

各チェン、各回転部分や摩耗しゅう動部分には十分に注油してください。また、部品が摩耗したまま使い続けると、摩擦による加熱の原因となり、場合によっては火災となります。

◆各部のグリスアップ箇所



11. トワイン切断ナイフの交換

ナイフの切れが悪くなったときは、交換してください。

トワインがトワインガイドから外れ、結束ミスの原因となります。

注意

ナイフを交換する時は、十分注意してください。

12. 長期格納時の手入れ

- 水洗いして付着した泥やホコリなどを落とし、巻き付いた草などを取り除いてください。
- 乾燥後は、各回転・しゅう動部やチェン類には十分注油し、錆びないようにしてください。
- 塗装のはがれた部分には、補修塗料などを塗って錆が出ないようにしてください。
- 各部のボルト・ナットが緩んでいないかを確認し、緩んでいる時は締めてください。
- 格納は、雨やホコリのかからない屋内の平坦な場所に保管してください。

不 調 診 断

不 調 内 容	診 断	処 置	参照 ページ
●拾い上げ部に草がつまる	●集草列が大きすぎる	●集草列を小さくする	16
	●車速が速すぎる	●車速を落として作業する	17
	●作物が漏れている	●予乾をする	—
●テーパー状のベールができる	●集草列の片側を走行している	●集草列の中央を走行する	—
	●長ワラの場合は株側をサイドプレートに合わせて走行していない	●株側をサイドプレートに合わせて走行する	16
●ピックアップドラムが回転しない	●ピックアップのシェアボルトが切斷している	●シェアボルトを交換する 01118 5060 250 (M6×25 8T 全ネジ)	13
●タイトバーが異常に振動する	●タイトチェンの油切れ	●チェンに十分注油する	14
●トワイン案内金具が作動しない	●トワインが段付きプーリで滑ってしまう	●トワインテンショナーのブレーキを強くする	13
		●巻き数を多くする	11
		●繰出しローラの調整ボルトを緩める	13
●トワインが結束途中で切斷される	●トワインが途中で詰まっている	●トワインを入れ直す	11
	●トワインテンショナーのブレーキが強すぎる	●ブレーキを弱くする	13
●チャンバー内がいっぱいになってもブザーが鳴らない	●トワイン案内金具が所定の位置にない	●案内金具を所定の位置（貼付マークの位置）に置きなおす	12
	●梱包圧感知用リミットスイッチがこわれている	●リミットスイッチを交換する	12
		●コードの差し込みを確認する	—
	●ブザーが故障している	●ブザーを交換する	9、13

不 調 診 断

不 調 内 容	診 断	処 置	参照 ページ
●繰出しローラからトワインが繰り出さない	●トワインが繰出しローラの所でスリップする	●繰出しローラの調整ボルトを締め込む	13
		●トワインテンショナーを緩める	13
	●トワインが途中で、絡んでいる	●トワインを入れ直す	11
●トワインがトワインガイドからはずれる	●ナイフの刃が切れなくなっている	●ナイフの刃を交換する 交換はナイフ上の穴にボルトを入れ、下のボルトでナイフの当りにして取り付けてください。 ※交換の時はナイフに十分注意してください。	12 22
●トワインがピックアップドラムに巻き付く	●草のない所でトワインを出しながら走行した	●草のあるところを走行する	17

この項にしたがって再度点検しても解決しないときには、販売店にお問い合わせください。

付 表

1. 主要諸元

品	名	自走小型ロールベアラ
型	式	SE-512
機 体 寸 法	全 長	2050mm
	全 幅	1240mm
	全 高	1138mm
質	量	386kg
走	走 行 方 式	エンドレスゴムクローラ
行	車 速	F1-1.4km/h ・ F2-2.8km/h R -1.4km/h
	ク ロ ー ラ 幅	200mm
エ ン ジ ン	型 式	三 菱 GB181LN-365
	定 格 出 力	3.4kw/1800min ⁻¹ (4.7ps/1800rpm)
	使 用 燃 料	無鉛ガソリン
	タ ン ク 容 量	3.6 ℓ
	始 動 方 式	リコイルスタータ
ベ ー ラ 部	作 業 幅	70cm
	ベ ー ル 寸 法	φ50×63cm
	ベ ー ル 重 量	10～20kg(含水率20～50%)
	トワインの種類	PP、サイザル
作 業 速 度		1.4km/h
作 業 能 率		40～50分/10a

※この主要諸元は改良などにより、予告なく変更することがあります。

2. 主な消耗部品

部 品 名 称	部 品 コ ー ド	備 考
シェアボルト(ピックアップ部)	01118 5060 250	M6×25 8T 全ネジ
ナイロンナット	02311 4001 060	M6
ナイフ	11661 6172 001	
マキトリヒモ	11660 7262 001	